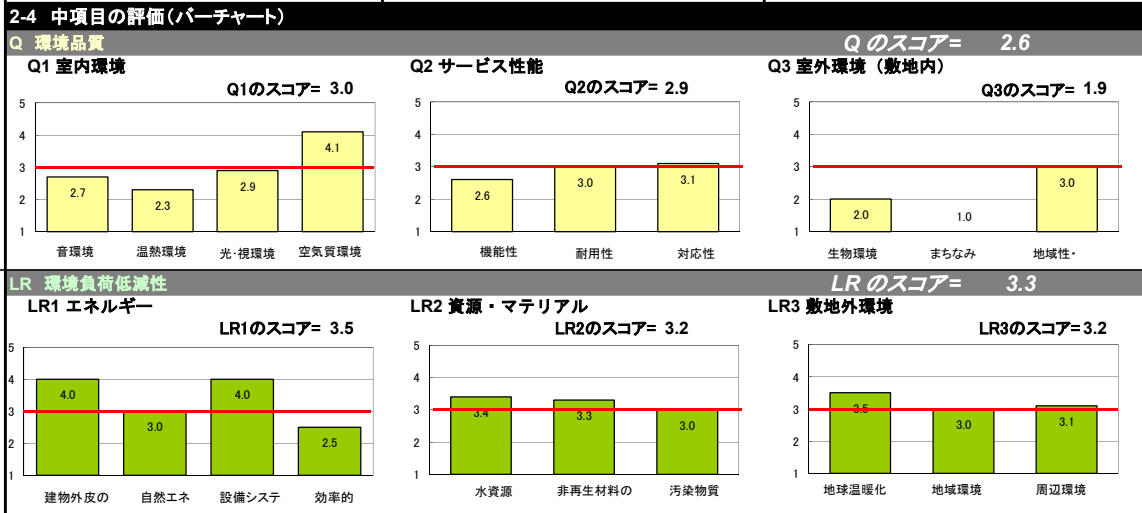
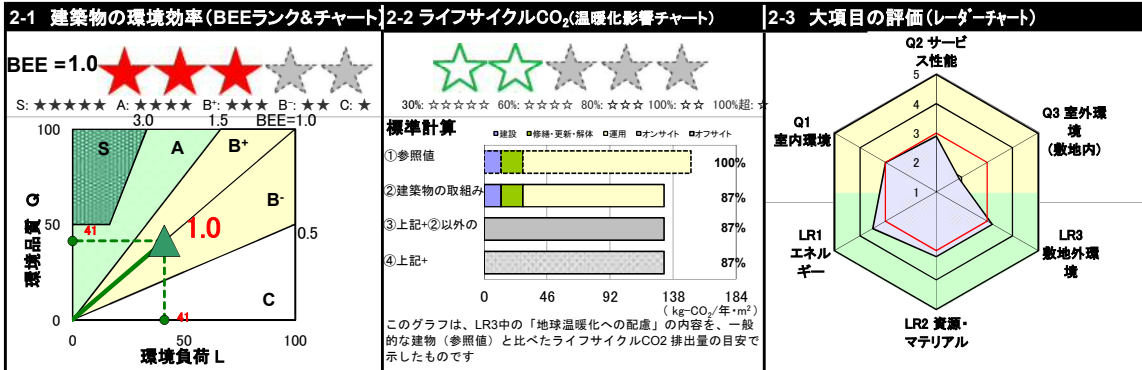


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)特別養護老人ホームひまわり・福釜新築工事	階数	地上4F
建設地	愛知県安城市福釜町下山81番1外7筆	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法第22条区域	平均居住人員	300人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2016年10月27日
敷地面積	5,983 m ²	作成者	CMC建築研究所一級建築士事務所
建築面積	1,376 m ²	確認日	-
延床面積	4,964 m ²	確認者	-



3 重点項目									
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化								
3.5	2.0								
②資源の有効活用	④地域材の活用								
3.2	1.0								
<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;"></td> <td style="width: 50%;">外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">8.6 %</td> </tr> <tr> <td></td> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> </tr> <tr> <td></td> <td style="text-align: center;">0.0 %</td> </tr> </table>			外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)		8.6 %		建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)		0.0 %
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)								
	8.6 %								
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)								
	0.0 %								
<p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>									

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4)地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$ × 100

みんなの環境活動を応援しています
モリコロパーク

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引 (仮称)特別養護老人ホームひまわり・福釜新築工事		■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き		欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AIC			
スコアシート 実施設計段階		独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分 評価点 重み係数	住居・宿泊部分 評価点 重み係数	全体
Q 建築物の環境品質							2.6
Q1 室内環境					0.40	-	3.0
1 音環境					2.7	1.00	2.7
1.1 騒音					3.0	0.40	3.0
1.2 遮音					2.4	0.40	2.2
1 開口部遮音性能					3.0	0.40	3.0
2 界壁遮音性能					2.0	0.60	1.0
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)					-	1.0	0.20
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				専)個室Lr値=50	-	4.0	0.20
1.3 吸音					3.0	0.20	3.0
2 温熱環境					2.3	0.35	2.2
2.1 室温制御					1.7	0.50	2.2
1 室温					1.0	0.38	1.0
2 外皮性能				良好な断熱・日射遮蔽性能を有する	4.0	0.25	4.0
3 ゾーン別制御性					1.0	0.38	-
2.2 湿度制御					3.0	0.20	1.0
2.3 空調方式					3.0	0.30	3.0
3 光・視環境					2.6	0.25	3.8
3.1 昼光利用					3.0	0.30	4.2
1 昼光率				診)機能訓練室2.378%、待)共同生活室0.930%、専)個室3.984%	3.0	0.60	5.0
2 方位別開口					-	-	-
3 昼光利用設備					3.0	0.40	3.0
3.2 グレア対策					3.0	0.30	3.0
1 昼光制御					3.0	1.00	3.0
3.3 照度				診)機能訓練室500lx、待)共同生活室500lx、専)個室350lx	4.0	0.15	3.0
3.4 照明制御				ベッド単位で細かい照明制御が出来る	1.0	0.25	5.0
4 空気質環境					4.1	0.25	4.2
4.1 発生源対策					5.0	0.50	5.0
1 化学汚染物質				F☆☆☆☆建材かつVOC対策品を全面的に使用	5.0	1.00	5.0
4.2 換気					2.0	0.30	3.0
1 換気量					3.0	0.50	3.0
2 自然換気性能				自然換気有効開口面積が居室床面積の1/10以上	-	-	5.0
3 取り入れ外気への配慮					1.0	0.50	1.0
4.3 運用管理					5.0	0.20	-
1 CO ₂ の監視					-	-	-
2 喫煙の制御				全館禁煙	5.0	1.00	-
Q2 サービス性能					-	0.30	-
1 機能性					2.2	0.40	3.8
1.1 機能性・使いやすさ					3.0	0.40	5.0
1 広さ・収納性				個室10㎡/床以上	-	-	5.0
2 高度情報通信設備対応					-	-	-
3 バリアフリー計画					3.0	1.00	-
1.2 心理性・快適性					1.0	0.30	2.0
1 広さ感・景観					-	-	3.0
2 リフレッシュスペース					-	-	-
3 内装計画					1.0	1.00	1.0
1.3 維持管理					2.5	0.30	-
1 維持管理に配慮した設計					3.0	0.50	-
2 維持管理用機能の確保					2.0	0.50	-
2 耐用性・信頼性					3.0	0.31	-
2.1 耐震・免震					3.0	0.48	-
1 耐震性					3.0	0.80	-
2 免震・制振性能					3.0	0.20	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.2	0.33	-
1 躯体材料の耐用年数					3.0	0.23	-
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔					2.0	0.23	-
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				床ビニル床シート20年、壁ビニルクロス(下地共)20年、天井ホード類30年	5.0	0.09	-
4 空調換気ダクトの更新必要間隔					3.0	0.08	-
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上、Eは不使用	5.0	0.15	-
6 主要設備機器の更新必要間隔					3.0	0.23	-
2.4 信頼性					3.0	0.19	-
1 空調・換気設備					3.0	0.20	-
2 給排水・衛生設備					2.0	0.20	-
3 電気設備					3.0	0.20	-
4 機械・配管支持方法				耐震Aクラス対応相当	4.0	0.20	-
5 通信・情報設備					3.0	0.20	-
3 対応性・更新性					3.3	0.29	2.7
3.1 空間のゆとり					4.0	0.31	2.4
1 階高のゆとり				共)階高3.7m、専)階高3.3m	4.0	0.60	2.0
2 空間の形状・自由さ				共)壁長さ比率=0.22、専)壁長さ比率=0.37	4.0	0.40	3.0
3.2 荷重のゆとり					3.0	0.31	3.0
3.3 設備の更新性					3.0	0.38	-
1 空調配管の更新性					3.0	0.17	-
2 給排水管の更新性					3.0	0.17	-
3 電気配線の更新性					3.0	0.11	-
4 通信配線の更新性					3.0	0.11	-
5 設備機器の更新性					3.0	0.22	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	0.22	-

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
		Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			1.0	0.40	-	-	1.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④		多目的ホールを地域のコミュニティ利用に一般開放	4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.5
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPIm=0.81	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用				3.0	0.20	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				4.0	0.30	-	-	4.0
集合住宅以外の評価(3a.3b)			高効率設備を中心に採用	4.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価(3c)				-	-	-	-	
4 効率的運用				2.5	0.20	-	-	2.5
集合住宅以外の評価				2.5	1.00	-	-	
4.1 モニタリング				3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制				2.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	
4.1 モニタリング				-	-	-	-	
4.2 運用管理体制				-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水			自動水栓や節水型便器を積極的に採用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				3.3	0.63	-	-	3.3
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	② 独自		ビニル系床材、磁器貫タイル	4.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	独自		OA707採用	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68	-	-	
1 消火剤				-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50	-	-	
3 冷媒				3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮				①	3.5	0.33	-	3.5
			ライフサイクルCO2概算値:87%			-	-	
2 地域環境への配慮				3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.2	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減	独自			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	独自		敷地内に駐輪場・来客用、従業員用、社有車用駐車場を配置	5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1 騒音	独自			3.0	1.00	-	-	
2 振動	独自			-	-	-	-	
3 悪臭				-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制				3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制				-	-	-	-	
3 日照障害の抑制				3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のガラス面に覆れる光への対策			光害チェックリストの一部を満たす、広告物は過半を満たす	4.0	0.70	-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30	-	-	

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

(仮称)特別養護老人ホームひまわり・福釜新築工事

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2014(v.2.0)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.5
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.5	0.10	
② 資源の有効活用				3.2
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	外構緑化:8.61%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)特別養護老人ホーム

計画上の配慮事項	
総合	建物を敷地の中心ほどに配置することで、北・東側道路からの騒音や排ガスの影響を受けにくい。デイサービス廻りのリハビリ庭園は樹木により視線をカットでき、道路からの影響を軽減させる。建物はホールを中心として東西2ヶ所に中庭を設けることで、各階に自然光が行き渡るように計画されている。また、1階デイサービス及び多目的ホールは来館者や地域の人々に開放され、中庭のデッキスペースは周辺の喧騒を感じさせない憩いの場となります。
Q1 室内環境	断熱材の強化により外皮性能を上げているなど、温熱環境に配慮している。 また、F☆☆☆☆建材を全面的に採用し、VOCについても放散量の少ない建材を全面的に採用している。 全館禁煙とするなど、空気質環境にも十分配慮している。
Q2 サービス性能	個室の床面積を広くし、広さ・収納性に配慮している。 また、耐用年数の長い材料を採用し、建物の維持管理に配慮している。
Q3 室外環境(敷地内)	多目的ホールを地域のコミュニティ利用に一般開放し地域性への配慮をしている。 また、設計プロセスに建物利用者が参加し快適性の向上に配慮している。
LR1 エネルギー	断熱材を強化し、建物の熱負荷を抑制している。 高効率設備を中心に採用している。
LR2 資源・マテリアル	自動水栓や、節水型機器を用いるなど、水資源を保護している。 躯体以外におけるリサイクル材を使用し、非再生資源の使用量削減に配慮している。 ノンフロン断熱材を採用するなど、汚染物質含有材料の使用を回避している。
LR3 敷地外環境	ライフサイクルCO2排出率を87%とするなど、地球温暖化への配慮をしている。 適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性に配慮、従業員用、社有用車両の駐車施設を確保するなど、交通負荷の抑制に配慮している。
その他	